

都市再生整備計画 事後評価シート
鹿児島中央駅東口地区

令和5年1月

鹿児島県鹿児島市

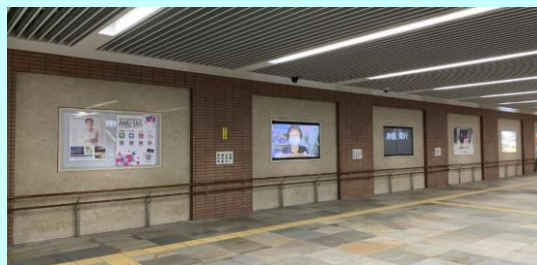
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	鹿児島市		地区名	鹿児島中央駅東口地区			面積	約43ha		
交付期間	令和2年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	626.6	国費率	0.50				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	電車通りデッキ整備事業										
		提案事業	地下通路民間広告社会実験、まち案内活動、事後評価分析調査										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地下通路広告掲示板整備事業			削除/追加の理由			新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、社会実験を含め、実施時期を見直したため。			なし	
		提案事業	かごしま国体交流ひろば設置運営事業			新型コロナウイルス感染症の拡大による令和2年かごしま国体の延期を受け、事業実施を取りやめたため。			なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし									—	
		提案事業	甲突川リバーサイド利活用事業			水辺とまちをつなぐ地域と協働した良好な水辺空間を形成し、市民や観光客が集い、賑わい、憩える場として利活用を図るため。			なし				
交付期間の変更	当初	—		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	歩行者通行量(10地点、土日の平均)	人/日	38,310	H28	46,000	R4	—	44,349	×	あり	● 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、外出機会が減少したことなどにより目標値の96%となったが、ライカ1920の開業などにより4年度は3年度と比べ20%増加しており、コロナが収束すれば、その効果の継続などもあり1年以内の達成が可能と考える。	令和5年10月
	指標2	まち案内活動の日数	日/年	19	H30	30	R4	—	0	×	あり	● 新型コロナウイルスの感染拡大や感染拡大防止のための外出の自粛等の影響により、令和2年度以降は活動を中止しているため、目標値に達しなかった。	令和6年3月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	ライカ1920前の歩行者通行量	人/日	8,612	H28	/	/	—	9,812	/	/	ライカ1920の全面開業後、歩行者通行量は、増加していることから、にぎわいの創出が図られた。	
その他の数値指標2	地価公示価格(3地点の平均)	円/㎡	634,000	H28	/	/	—	681,000	/	/	ライカ1920開業に伴う地区の価値向上により、不動産投資が活発化し、集客力のあるテナントの出店などが期待できると考える。		
4)定性的な効果発現状況	ライカ1920や電車通りデッキの整備などにより、鹿児島の玄関にふさわしい都市景観の形成やにぎわいとゆとりある都市空間が創出され、本市のイメージアップにつながった。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	実施なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—					
	官民連携による取組	まちづくり活動の財源を確保するため、将来的にまちづくり団体が中央駅地下通路で広告事業を行うことを見据えた社会実験を市が行い、市民の反応を確認した		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「鹿児島中央駅周辺まちづくり推進協議会」の会員が主体となり、安定した財源確保のため、中央駅地下通路での広告事業実施を目指す。					
		鹿児島市維新ふるさと館周辺の甲突川左岸・右岸緑地における新たなにぎわい創出としての民間活力の導入検討(甲突川リバーサイド利活用事業)		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も必要に応じて社会実験を実施し、本格実施に向けた検討を行う。					
持続的なまちづくり体制の構築	鹿児島中央駅周辺におけるまちづくり法人の設立検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 「鹿児島中央駅周辺まちづくり推進協議会」の会員で構成される一般社団法人を都市再生推進法人に指定し、人的・財的に自立した民間主体のまちづくりを推進する。						

様式2-2 地区の概要

鹿児島中央東区地区(鹿児島県鹿児島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:かごしまの陸の玄関にふさわしいにぎわいとゆとりある都市空間の創出とおもてなしの心に溢れたまちづくり 目標1:交通結節拠点としての安全性、利便性の向上や新たなにぎわいの創出により、回遊性の向上を図る。 目標2:地元主体のまちづくりを推進する。	歩行者通行量(10地点、土日の平均) 単位:人/日	38,310 H28	46,000 R4	44,349 R4
	まち案内活動の日数 単位:日/年	19 H30	30 R4	0 R4



▲地下通路民間広告社会実験の様子



▲電車通りデッキ

□提案事業:事業活用調査
②地下通路民間広告社会実験

□提案事業:まちづくり活動推進事業
④まち案内活動

□提案事業:事業活用調査
③甲突川リバーサイド利活用事業

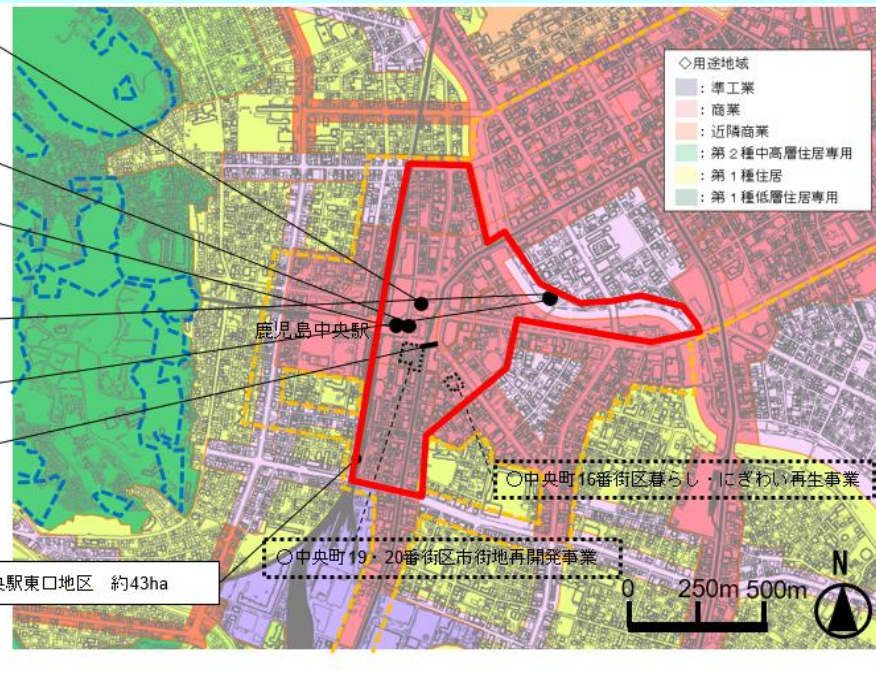
□提案事業:まちづくり活動推進事業
③甲突川リバーサイド利活用事業

■基幹事業:地域生活基盤施設
①電車通りデッキ等整備事業

□提案事業:事業活用調査
⑤事後評価分析調査

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

鹿児島中央駅東口地区 約43ha



まちの課題の変化

- ・中央駅周辺の拠点整備が完了したことから、今後は、いづろ・天文館地区とつなぎ、回遊性を向上させることが課題である。
- ・民間のまちづくり活動の充実によるにぎわい創出が必要である。
- ・中心市街地では、にぎわい拠点の整備が一定程度進んだことから、今後は、これらの整備効果を活かしながら、広域的な拠点形成をさらに進め、歩いて楽しめるまちづくりを進めることが課題である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・ライカ1920やセンテラス天文館等の拠点を線をつなぎ、魅力的なまちづくりを進めていくため、加治屋町1番街区など民間による再開発を推進する。
- ・まちづくり団体等に対し、国の制度を活用しながら支援を行っていく。
- ・鹿児島中央駅から天文館、本港区、さらに鹿児島駅までのエリアにおいて、公共空間を活用した新たなにぎわいや憩いの空間を創出することで、歩いて楽しめるまちづくりを推進する。